

自然を愛し自然を保護する活動の実践

所属 遠野市立大出小・中学校森林愛護少年団

○ 阿久津 唯
山下 香里
佐々木 愛梨

1 はじめに

(1) 地区の位置

遠野市の市街地から北へ23km、早池峰山(1,917m)の南麓に発する猿ヶ石川と滝川に沿った市の最北端に位置する。

北に早池峰山と薬師岳(1,644.9m)を控え、早池峰国定公園の入り口でもあり俗化されていない自然の景観が残されている。

(2) 地区の概要

古くからの農林業を主とした学校周辺の地区と戦後入植した酪農を営む地区の人々によって構成されている。テレビや電話の普及と道路の整備によって日々の生活は便利になったが、公共施設の整備が期待されている。

(3) 学校の概要

地域と連携した大出森林愛護少年団活動を展開し、緑豊かな郷土を守り育てている。古くから地域に伝わる大出早池峰神楽の伝承活動を展開し、伝統文化の継承・

発展に努めている。

極小規模校・併設校の特色を生かした小中一環教育を推進し、一人一人に行き届いた教育の推進に努めている。



図-1 (岩手県遠野市立 大出小・中学校)

2 1年間の主な活動

(1) 道路清掃

ア 趣旨

春になると雪解けとともに大出、大野平地区に多くのゴミが目につくようになってくる。自分たちが住んでいる地域の環境をよくするとともに、清掃活動を通してゴミ問題や環境について考えさせる。

イ 概要

- (ア) 期日 平成15年5月1日 (木)
- (イ) 場所 小出地区～大出小中学校 小出地区～東禅寺国有林382林班
- (ウ) 参加者 児童生徒 教師 PTA 地区民 附馬牛老人クラブ(35名)
- (エ) 内容
- ・小出集会所から2つの班に分かれてゴミ拾い(燃えるゴミ、燃えないゴミ、アルミ缶、スチール缶)をする。
 - ・集めた缶を洗い、アルミ缶とスチール缶に分けて本数を数える。

ウ 児童生徒の感想

- ・道路清掃で、空き缶を拾うことが分かった。
- ・ゴミをいっぱい拾えたのでよかった。
- ・ゴミを去年よりいっぱい拾えたのでよかった。司会をうまくできたのでよかった。ゴミを捨てないように看板を立ててみたい。
- ・わたしは、ゴミ拾いと拾ってきた缶を洗うのをやった。とても手が冷たかった。缶が840個あった。去年より多いか少ないか分からない。
- ・ゴミ袋3枚ぶんを拾うことはできなかったけれど、たくさん拾うことができてよかった。
- ・みんな、拾うのも洗うのも一生懸命やっていた。
- ・袋いっぱいまでゴミをつめこんでいた。缶洗いでも、手が赤くなるくらい一生懸命やっていた。みんなが協力してやっていたのでよかった。数えた分が去年より少なくてよかった。
- ・缶やゴミがかたまって捨ててあった。年々、減ってきている缶が、今年は去年よりも多かったように思う。みんなが協力して、道路をきれいにすることができた。

エ 総括

今年度も地区民のご協力をいただいて道路清掃を実施することができた。

子どもたちは、マナーの悪さに驚きながらも、ゴミで重くなった袋をさげながら、たくさんゴミを拾っていた。学校に戻ってからも、意欲的にしかも手際よく缶を数えたり、洗ったりする仕事を進めていた。今年は、昨年と同程度のゴミの量だったが、今後さらなるマナーの向上を目指すとともに、この活動を通して環境問題についての認識を深めていきたい。



写－1 道路清掃の様子（東禅寺国有林382林班周辺）

（2）植樹祭

ア 趣旨

- ・遠野市の水源地となっている琴畑高原において、疎林や草地を自然林に復元することを旨に行われる植樹祭に参加することにより、緑の再生に対する関心を高める。
- ・遠野市植樹祭に参加し、苗木を植えることにより豊かで美しい郷土をつくろうとする心を育てる。

イ 概要

- （ア）期日 平成15年6月7日（土）
- （イ）場所 土淵町琴畑高原（東恩徳国有林51林班）
- （ウ）参加者 児童生徒 教師（10名）
- （エ）内容
 - ・開会式
 - ・植樹
 - ・閉会式

ウ 児童生徒の感想

- ・木を少しだけしか植えられなかったから、来年はいっぱい植えたい。
- ・土を深さ30センチメートル、幅40センチメートル掘って、根を広げて植えることが分かった。木をたくさん植えることができたので、木が来年は育っているといい。
- ・植え方を教わって、教えられた通りに植えた。1人10本くらい植えた。植える時、石がいっぱいあっていやだった。ずっと前に知り合った子も来ていて、びっくりした閉会式でいきなり感想を言うことになって、びっくりした。緊張しながら話した。木が大きくなるのが楽しみだ。
- ・今年は去年以上に人がいっぱいいて、びっくりした。土がかたくて大変だった。10本以上は植えることができた。人数は少なかったが、頑張って植えることができた。

エ 総括

今年度は、早池峰遠野口安全祈願祭と重なったため、半数の参加になってしまった。

植樹は、自然を守ることにつながり、豊かな郷土をつくろうという意識を高める機会となった。

琴畑高原での植樹祭は、遠野市の水源地となっている所への植樹ということで、20年後、30年後には、大木となってきれいな水を作る大切な役目を果たすことを知り、自分たちがその一役を担っているという気持ちで植樹していたようだ。

一年間に一、二度の植樹祭への参加であるが、その都度、自然を守ることの大切さを考える行事として、たいへん有意義な参加となっているように思う。



写-2 (植樹祭の様子)

(3) 野鳥観察

ア 趣旨

(ア) 学校周辺に生息する野鳥を観察しその名前を覚えるとともに、興味や関心を高める機会とする。

(イ) 野鳥の観察を通じて自然愛護の態度を培う。

イ 概要

(ア) 期日 平成15年6月17日(火)

(イ) 場所 図書室 学校周辺

(ウ) 参加者 児童生徒 教師(16名)

(エ) 講師 時田 克夫氏

(オ) 内容

- ・遠野に生息する鳥、獣、虫についてスライドを見ながらの講話
- ・児童生徒からの質問
- ・校舎周辺の野鳥観察(ムクドリ、ヒヨドリ、カラス、スズメ、トンビ、モズ、ツバメ)

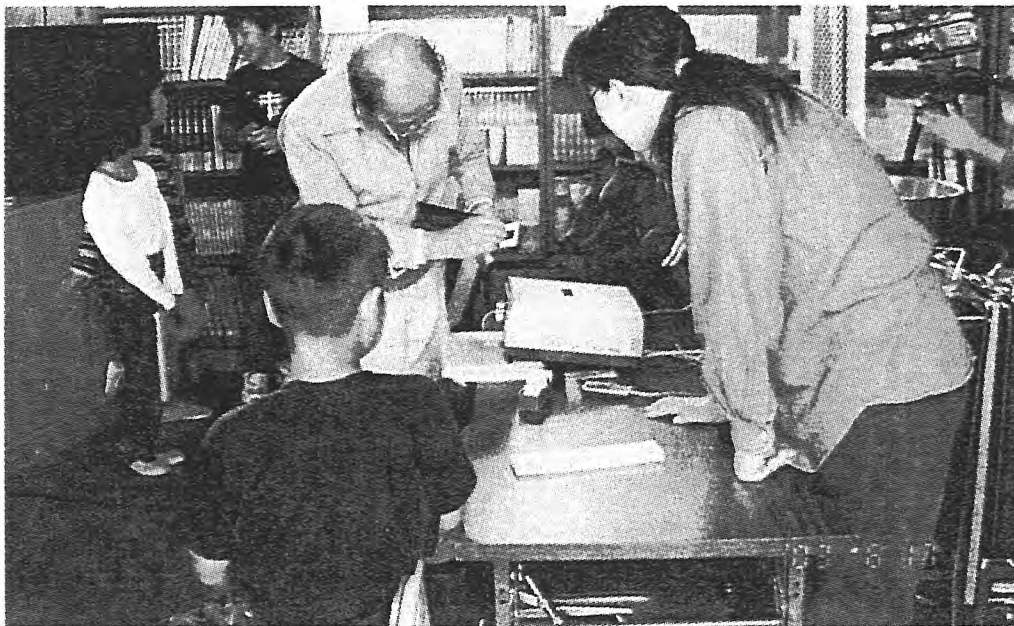
ウ 子どもの感想

- ・スライドでは、ウマオイとリスがかわいかった。外へ行って、7羽の鳥を見て、おもしろかった。ヒヨドリだけを見れなかった。
- ・スライドを見て、いろいろな虫がいるんだなあと思った。外に行くと、最初はそんなに鳥がいなかったのに、だんだん鳥がやってきた。ヤナギの木にあわがついていて、その中に虫がいた。
- ・開会式をした後、スライドを見た。いろいろな虫や動物が見れた。その後、外に出て鳥を探した。あまり鳥を見ることができなかった。鳥をもっと見たかった。
- ・スライドで見たことのない動物や虫を見ることができた。野鳥は去年よりも少なめだったが、7羽の鳥を見つけ、覚えることができた。今年の野鳥観察では、鳥などをじっくり見ることができた。タンポポの種もしっかりまいて、育てていきたい。
- ・スライドで日本カモシカや私がみたことのないチャバネフユシャクも見ることができた。外では、ヒヨドリやトンビなど7種類の野鳥を見ることができた。中には何かくわえながらとまっている鳥もいた。時田さんのお話の中の、鳥は安心した時と警戒した時のくちばしの向きが違うということを知った。

エ 総括

今年度も、時田克夫先生を講師として、野鳥観察会を開いた。時田先生が見つけた遠野の鳥、獣、虫などについて、スライドを見せていただきながら教えていただき、自然に対する理解を深める機会となった。

一年に一回の野鳥観察会だが、スライドを見せていただいたり、お話をうかがったりして、徐々に、野鳥だけでなく、いろいろな動植物に対する関心も高まっているように思われる。今後も野鳥観察会を継続していく中で、自然について学び、自然を守ることの大切さを学んでいきたい。



写-3 (野鳥観察会の準備の様子)

(4) 育樹祭

ア 趣旨

- ・ 緑とのふれあいをとおして、森林・林業に対する理解を深める。
- ・ 育樹祭に参加し、間伐作業をすることにより緑を愛し守り育てる心を培う。

イ 概要

- (ア) 期日 平成15年9月20日 (土)
- (イ) 場所 附馬牛町東禅寺国有林
- (ウ) 参加者 児童生徒 教師(15名)
- (エ) 内容
 - ・ 開会式
 - ・ 間伐体験
 - ・ 閉会式
 - ・ 森林教室(巣箱づくり)

ウ 児童生徒の感想

- ・ 受け口の少し上から伐り始めることが分かった。
- ・ 上と木を倒す方向を確認することが分かった。
- ・ 木を初めて伐って、いっぱい切れてよかった。巣箱作りで、釘を打つのがおもしろかった。
- ・ 木が倒れる時につるにひっかかって倒れなかったり、ほかの木にひっかかったりして大変だったけれど、営林署の人達が助けてくれたので上手にできた。最初は木を伐るのがこわかったけれど、けがをしないでできたのでよかった。
- ・ 特に木を伐る作業を頑張れた。
- ・ 初めて育樹(間伐)をした。木を伐って、少し腕が痛くなった。でも、こういう体験はもうできないと思った。巣箱をととても簡単に作ることができた。
- ・ 作業は間伐をすると聞いて、難しいのではないかと思ったけれど、なんとか木を伐ることができた。けっこう力があると思った。最初は暗く感じた林の中が間伐が終わる頃には明るくなっていた。

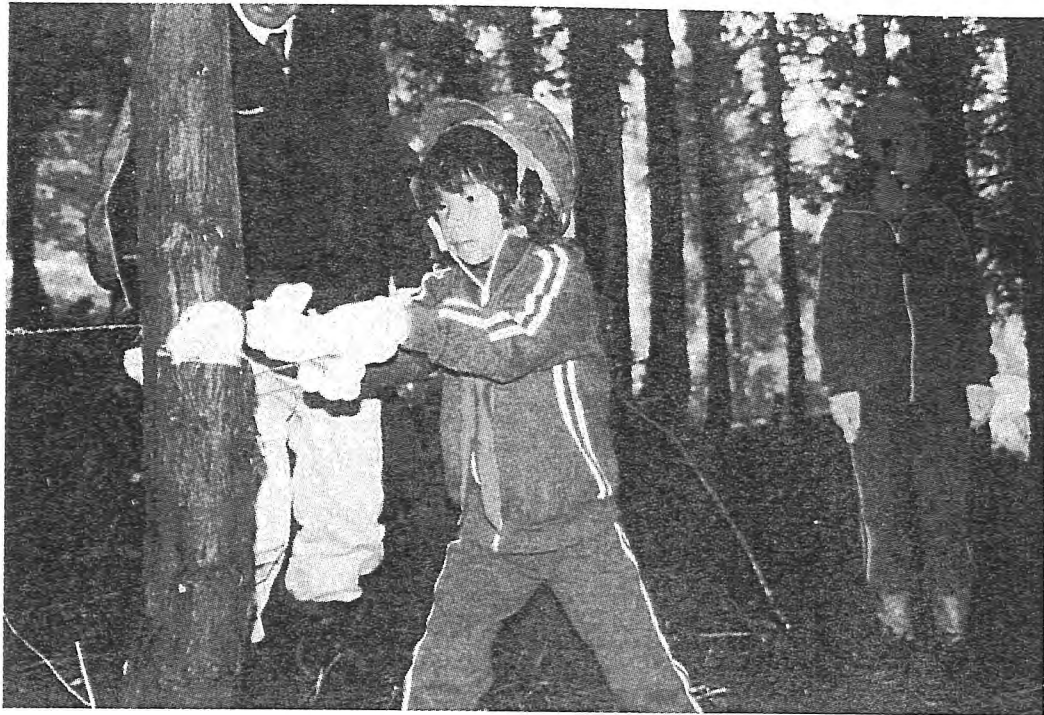
エ 総括

育樹祭での緑とのふれあいをとおして、森林・林業に対する理解を深める機会となった。

のこぎりを使っての間伐作業、間伐後の切り株で樹齢を数える体験、間伐材を使っての巣箱作りなど有意義な体験をすることができた。

(5) その他の活動

- ア きこのこの植菌作業・・・ほだ木を切り、しいたけ、なめこの菌を植えこんだ。収穫祭で調理し、味わった。
- イ 緑の少年団県大会・・・児童生徒全員が参加し、植樹の必要性を学んだ。
- ウ 早池峰山清掃登山・・・早池峰山に登山しながら清掃活動を行った。登山の途中で木や花を観察した。



写-4 (育樹祭の様子)



写-5 (早池峰清掃登山の様子)

3 まとめ

- ・森林愛護少年団の活動は、P T A、教育振興会との開催で行っている。
- ・過去においては、ゴミ箱の設置、早池峰・薬師岳登山道の整備補助、樹木観察等を行ってきた。
- ・自然を愛し、自然と共に生きることを活動の基本とし、特に小学生でも分かる活動を目指してきた。
- ・特に育樹祭での間伐は子供達も教師も初体験であり、貴重な体験であった。水資源確保のための植樹祭で植えた木の未来の姿を実感でき、なぜ間伐を行うかについての学習も深められた。その後の森林教室も間伐材を使ったものであり、間伐材のいろいろな使い道、水資源の確保に対する森林の重要性を実感できたことは、今年度の大きな成果であった。
- ・昭和45年に団を結成して以来、活動の伝統を守り、自然を守る活動を行ってきた。学校の学習でも総合的な学習の時間に、大出の樹木や自然をテーマにしてきている。これからも、ふるさと大出の自然を愛し、自然を保護する活動を続けていきたい。



写-6 (大出森林愛護少年団員)